

看護栄養学部 看護学科

系列	領域	授 業 科 目 名	履修方法	履修単位数		備 考	
				学部共通	専門科目		シラバス掲載頁
基礎教育科	を人間的領域成長	臨床心理学概論	L	2			17
		認知症援助論	L	2			19
専門教育科目	看護の基盤となる領域	社会保障制度と健康	L		2		21
		看護原論	L		2		23
		基礎看護技術 I (基本技術)	S		2		25
		看護診断学概説	S		1		27
		生体防御・感染看護論	L		2		29
計				4	9		
合 計				13			

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	臨床心理学概論
代表ナンバリングコード	00014BG02
講義開講時期	後期

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 餅原 尚子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能 ○態度・志向性
到達目標	<p>病み、悩み、苦悩する人間の「みたて（アセスメント）」と「かかわり（心理療法）」について学ぶ。本講義では、人間を理解することの意味、かかわりのありよう（「生きる意味」への心理支援）について臨床心理学の視点から理解するのがねらいである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「臨床心理学」とは何かを理解することができる。 2. 臨床心理学的アセスメントについて理解することができる。 3. 心理療法について理解することができる。 4. 現代の病理現象（トラウマ、自殺、虐待など）に鑑みつつ、事例等を通して学び、臨床心理学を学ぶ上での倫理やスーパーヴィジョンについて感得することができる。
授業の展開計画	<p>必要に応じて、話題のトピックスを取り上げたり、受講生が積極的に参加できるよう、「やってみよう」方式のアセスメント、討論等を取りあげる。</p> <p>精神科病院、保健所、学校（スクールカウンセリング、緊急支援、特別支援教育）、被害者・被災者支援、メンタルヘルス（公務員、会社員、支援者等）における心理臨床の実務経験に基づく業務の実際を活かした内容になる。</p>

授業計画表	
回	内容
第1回	臨床心理学とは何か（テキストP1～4） ・臨床心理学にもとめられる人間観 ・発達観
第2回	心理支援と人間観（人間理解と支援に必要な精神的風土）（テキストP4～9） ・教育観 ・臨床観
第3回	臨床心理アセスメント：人間理解の方法（テキストP11～15） ・面接法、観察法、診断基準
第4回	心理検査の意味と背景（テキストP15～18） ・「受ける側」と「する側」のありよう ・テスト・バッテリー（心理検査の種類とその組み合わせ）
第5回	心理療法（テキストP99～103） ・精神分析療法 ・行動療法 ・人間学的心理療法
第6回	・こどもの心理療法（遊戯療法：プレイ・セラピー）（テキストP55～57）
第7回	傷つきやすい人間の心理（1）（テキストP99～103） ・自我、自己の拡散と喪失 ・自我関与 ・自我の強さ ・自我同一性拡散

第8回	傷つきやすい人間の心理 (2) (テキストP103~104) ・ 自我、自己の拡散と喪失 ・ 自己実現 ・ 自己概念
第9回	情緒障害の心理 (テキスト) P109~115 ・ 神経症的不登校 ・ 選択性緘黙
第10回	「いじめ」現象のアセスメントと心理支援 (テキストP118~124) ・ いじめる側」の心理 ・ 見て見ぬふりをする側の心理 ・ いじめられている側の心理
第11回	病める人間 (テキストP125~139) ・ 心の病気 (統合失調症、神経症、心身症) ・ 体の病気 (エイズ)
第12回	現代社会と高齢化現象 (テキストP118~124) ・ 高齢の意味 ・ 病気や障害のある高齢者
第13回	メンタルヘルスと人間理解 (テキストP149~163) ・ 感情労働、共感疲労 ・ 惨事ストレス (GIS) ・ 発達障害の苦悩
第14回	被災者・被害者の心理支援 (テキストP165~204) ・ PTSD (心的外傷後ストレス障害) ・ 緊急支援 ・ サイコロジカル・ファースト・エイド (PFA)
第15回	臨床心理学における倫理とスーパーヴィジョン (テキストP205~222) ・ 倫理感覚の涵養 ・ スーパーヴィジョン (生涯続く自己研鑽) ・ 「生きる意味」の確立
履修上の注意事項	守秘義務を遵守すること。
準備学習 (予習・復習等)	シラバスを参照し、講義開始前にその都度、テキストを熟読し、専門用語等を調べておくこと。講義終了後はファイル (ノート) を作成し、いつでも復習できるようにしておくこと。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習をすること。
評価方法	到達目標に対して、臨床心理学とは何かを理解し、アセスメントと心理療法について事例を通して感得していることを中心に評価する。「関心・意欲の程度をみる授業への取り組み」(30%)、「臨床心理学についての理解と心理支援についての理解度、定着度をみる学期末の課題レポート」(70%)の総合評価とする。
テキスト	久留一郎・餅原尚子著 (2019) 『臨床心理学―「生きる意味の確立」と心理支援―』八千代出版 (全員購入)
参考文献	恩田彰・伊藤隆二編 (1999) 『臨床心理学辞典』八千代出版
学修のフィードバック方法	課題 (試験やレポート等) については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験 (レポート等) については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。

ページの先頭へ

閉じる

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	認知症援助論
代表ナンバリングコード	00049BG02
講義開講時期	前期

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 小楠 範子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○態度・志向性
到達目標	認知症がどのような疾患なのか、また認知症をもつ人とその家族がどのような課題に直面しているのかを理解し、自分の立場でどのような支援ができるかを考えることができるようになる。 1. 認知症がどのような疾患なのか説明できる。 2. 認知症をもつ人とその家族がどのような課題に直面しているのか述べることができる。 3. 認知症啓発のために自分に何が出来るかを考え、述べることができる。
授業の展開計画	認知症とそのケアについての学習を中心にすすめ、それらの学習内容を踏まえた上で、後半では認知症啓発のため自分にできることを考えていく。 高齢者ケア施設における看護師としての実務経験による具体的な例をあげながら授業を展開する。

授業計画表	
回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	認知症を引き起こす病気① 認知症とは
第3回	認知症を引き起こす病気② 認知症の原因になる代表的な病気
第4回	認知症をもつ人の困りごと① 認知症が生活に及ぼす影響
第5回	認知症をもつ人の困りごと② 必要な対応
第6回	認知症をもつ人と家族の気持ち① 事例紹介
第7回	認知症をもつ人と家族の気持ち② 事例からの考察
第8回	認知症をもつ人を支える社会システム
第9回	若年性認知症
第10回	認知症をもつ人の尊厳を支えるために
第11回	認知症ケアの歴史
第12回	認知症予防
第13回	認知症啓発のために私にできること① 個人ワーク
第14回	認知症啓発のために私にできること② グループワーク
第15回	まとめ

履修上の注意事項	1. 課題等の提出期限は、厳守すること。 2. 疑問や意見等をリアクションペーパーに記載し、積極的に授業に参加すること。 3. 認知症に関するニュース等に関心をもって、学習内容と関連づけて考えるよう努力すること。
準備学習（予習・復習等）	配布した資料は、その日の復習に活用すること。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。

評価方法	講義内容への関心や疑問、理解度を見る授業毎のリアクションペーパー(30%)、授業のテーマに応じて出された課題(70%)の総合評価とする。
テキスト	配布資料あり。
参考文献	河野和彦(2016)『ぜんぶわかる認知症の事典』成美堂出版 日本認知症ケア学会(2016)『改定4版 認知症ケアの基礎』日本認知症ケア学会 日本認知症ケア学会(2016)『改定4版 認知症ケアの実際I:総論』日本認知症ケア学会 他
学修のフィードバック方法	課題(試験やレポート等)については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験(レポート等)については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法:グループワーク

[ページの先頭へ](#)[閉じる](#)

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	社会保障制度と健康
代表ナンバリングコード	21149SB10
講義開講時期	後期

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部看護学科	21149SB10

担当教員	
氏名	
◎ 田中 みゆき	
井上 祐子	

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○態度・志向性
到達目標	<p>看護師が「病気ではなく病人をみる」ためには、社会保障や社会福祉制度の理解が必須のもの1つになっている。高齢化の急速な進行と年金制度の成熟化、介護保険制度の創設などにより社会保障や社会福祉の制度が普遍的な制度として認識される一方、国民負担の急増によりその持続可能性を危ぶむ声があがっている。看護師にとって特に関わりが深く専門的な知識が求められる医療保障や介護保障制度などを中心に社会保障制度への理解を深め、自分自身の生活の上でも関心を高めることがねらいである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的人権に基づく生存権の保障を確保し、人々が日常生活を営むことが保障される社会保障制度について、その機能と変遷する背景に述べることができる。 2. 社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生及び医療の全体像について理解し、看護専門職として活動する上で重要となる項目について説明できる。 3. 社会保障や社会福祉制度が将来的に持続可能なものとなるための課題や国民の一人としてどのような責任を果たすべきか説明できる。
授業の展開計画	これまでの行政保健師の経験を活かし事例を交え解説する。履修者が自分自身の将来の生活をイメージしながら、社会保障制度を支える国民の一人として問題意識を持ち、社会の様々な変化をキャッチできる力を身につけられるような授業展開を目指す。

授業計画表	
回	内容
第1回	授業展開オリエンテーション 【田中】 講義の概要とねらい 1 社会保障制度の概要
第2回	2 現代社会の変化と社会保障・保健医療の法制度と動向 【田中】 (1) 保健医療の動向 ① 現代社会の変化 ② 社会保障・保健医療の動向（給付と負担のバランス）
第3回	2 現代社会の変化と社会保障・保健医療の法制度と動向 【田中】 (1) 保健医療の動向 ③ 健康づくり対策の展開 ④ 地域保健対策の展開
第4回	3 医療保障制度 【田中】 (1) 身近な医療の現場と制度全体について ① 医療保障制度の構造と沿革 ② 健康保険と国民健康保険
第5回	3 医療保障制度 【田中】 (1) 身近な医療の現場と制度全体について ③ 高齢者医療制度 ④ 保健診療のしくみ ⑤ 公費負担医療 ⑥ 国民医療費

第6回	4 介護保障制度 【田中】 (1)介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 (2)介護保険制度の概要
第7回	4 介護保障制度 【田中】 (3)介護保険制度の課題と展望
第8回	5 所得保障制度 【田中】 (1)所得保障のしくみ (2)年金制度 (3)社会手当
第9回	6 公的扶助 【田中】 (1)生活保護の現状や課題 (2)貧困・低所得者対策と看護職への期待
第10回	7 社会福祉の法制度・動向と分野とサービス 【井上】 (1)高齢者福祉 (2)障害者福祉 (3)児童家庭福祉
第11回	8 社会福祉実践と医療・看護 【井上】 (1)社会福祉援助とは (2)個人援助技術・集団援助技術
第12回	8 社会福祉実践と医療・看護 【井上】 (3)間接援助技術と関連援助技術 (4)社会福祉援助の検討課題
第13回	9 医療・看護・福祉の連携の実際 【田中】 薬害の歴史と対策から学ぶ看護の役割
第14回	10 社会保障を踏まえた看護活動の目的・対象・活動の場 【田中】 (グループワーク・レポート提出) 各自選択したテーマについて情報収集し、看護の視点から問題点や課題・解決策等について討議し看護の役割等について考察する。
第15回	授業まとめ 【田中】
履修上の注意事項	人の生活に欠かせない制度が社会保障である。社会の変化に敏感になり、自分の事として社会保障をとらえるために、さまざまな情報を収集して授業に臨むこと。
準備学習（予習・復習等）	テキストを予習して授業に臨むこと。 新聞等の関連記事を授業に役立てること。
評価方法	単位認定試験（70%）、レポート（20%）、授業態度（10%）の総合評価とする。
テキスト	福田泰生他(2023)：『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉』医学書院（全員購入）
参考文献	神馬枉峰他（2018）「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生」医学書院 増田雅暢他（2023）ナーシンググラフィカ健康支援と社会保障③「社会福祉と社会保障」MCメディカ出版 一般財団法人 厚生労働統計協会（2023）『国民衛生の動向2023／2024』 他配布資料
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法：グループワーク、プレゼンテーション

ページの先頭へ

閉じる

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	看護原論
代表ナンバリングコード	21149SB14
講義開講時期	前期

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部看護学科	21149SB14

担当教員
氏名
◎ 小湊 博美

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎汎用的技能、○知識・理解、○態度・志向性、○総合的な学習経験と創造的思考力
到達目標	<p>看護は、人間の健康に焦点を当て、その人とその環境に働きかけ、人々が自身の持てる力で最適な健康状態を生み出し生活できるように援助する働きである。また、看護は人間を対象とした実践の科学でもある。本科目では、看護が人間の健康や生活に関わることを理解し、看護を支える主要な考え方、看護の方法、看護者の役割について学ぶ。講義終了時には「看護とは何か」についてその領域と方法がわかり、説明できることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護は人間の健康や生活に関わることを例示して説明できる。 2. 看護を支える主要な考え方を学び、看護の役割と機能を理解できる。 3. 看護とは何か、その領域と方法が理解できる。
授業の展開計画	<p>看護が人間の健康や生活に関わることを理解し、看護を支える主要な考え方、看護の方法、看護者の役割について学ぶ。文献学習やグループ学習を通して、看護とは何か、看護の独自機能をどのように発揮していくのか、社会の期待に応えるために看護が担う役割は何か、等を考察する。本授業は、看護場面のイメージが容易となるよう、病院における看護師としての実務経験による事例を含んだ内容になる。</p>

授業計画表

回	内容
第1回	看護とは ヘルスケアとヘルスケアチーム
第2回	看護の対象 生活している人間・暮らしている人間
第3回	看護の対象の捉え方 ホリスティックな存在としての人間
第4回	健康を生きる人間 － 7つの側面からみた人間－
第5回	健康を生きる人間 － 事例による理解－
第6回	健康と看護 健康の理解
第7回	看護の概念 看護の目的と機能
第8回	看護の概念 看護の作用
第9回	看護の方法 看護の問題解決過程
第10回	看護の方法 看護の利用者と提供者の関係
第11回	看護の構造 の看護－ － 課題解決のプロセスとしての看護・人間関係のプロセスとしての看護・自己実現のプロセスとしての看護－
第12回	看護の構造 － 3つの側面の関係性－
第13回	看護の機能と役割 看護の役割、保健・医療・福祉システムとの連携
第14回	看護の科学性 1. 主観性と客観性 2. 全体と部分との関係性

第15回	看護の科学性	3. 一般論と個別性 4. 予測性と不測性
履修上の注意事項	レポートは提出期限を厳守すること。	
準備学習（予習・復習等）	授業の展開計画に該当するテキストの箇所を事前に読み、不明な用語や専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。 「発達援助論」「健康論」での学習内容を復習しておくこと。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習を行う。	
評価方法	試験50%、課題レポート30%、学習の参加度20%の割合で、総合的に評価する。	
テキスト	小玉香津子・高崎絹子著（2016）『看護学概論』文光堂（全員購入） F. ナイチンゲール著（2019）『看護覚え書』現代社（全員購入）	
参考文献	必要に応じて、随時提示する。	
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。	
備考	アクティブラーニングの教授法：グループワーク、グループおよび全体ディスカッション等	

[ページの先頭へ](#)

[閉じる](#)

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	基礎看護技術 I (基本技術)
代表ナンバリングコード	21149SB16
講義開講時期	前期

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部看護学科	21149SB16

担当教員
氏名
◎ 坂下 恵美子
他

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎汎用的技術 ○知識・理解 ○態度・志向性
到達目標	<p>基礎看護技術 I (基本技術)では、対象の理解と看護実践の基礎となる能力を養うために、看護の共通基本技術や日常生活の援助技術の習得を目指す。そのため、以下を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護技術の特性、ならびに看護の共通基本技術や日常生活援助技術に関する基礎的知識を述べることができる。 2 原理・原則に基づきながら共通基本技術や援助技術を実施することができる。 3 演習を通して、看護職としての基本的な態度や行動を示すことができる。
授業の展開計画	<p><授業概要></p> <p>本科目は、学内に実践の場を想定し、グループ学習や学生間における直接的な体験を主体とする。まず、専門職として看護職が行う看護技術の特殊性や科学的根拠に基づく看護技術の意義を学習する。次に看護の共通基本技術について、基礎的知識と方法を学ぶ。さらに、健康上のニーズを充足するために必要な日常生活援助技術に関する基礎的知識や安全・安楽・自立の視点に基づいた日常生活を支援する方法を学ぶ。加えて、一連の演習を通して、看護の役割を担う者としての倫理的態度を習得する。</p> <p>なお、本科目は1回につき2コマずつ展開し、グループ毎に担当教員を配置し指導する。講義・演習は病院における看護職としての実務経験に基づいた知識を含む。</p>

授業計画表	
回	内容
第1回	ガイダンス、看護技術の特徴
第2回	コミュニケーションの特徴
第3回	看護記録
第4回	感染の基礎知識
第5回	手洗い・个人防护用具の使用方法 (演習)
第6回	安楽確保の技術
第7回	安楽な体位保持・ボディメカニクス (演習)
第8回	活動・休息の援助技術ー体位変換・移動ー
第9回	体位変換・歩行介助 (演習)
第10回	活動・休息の援助技術ー移乗・移送ー
第11回	車椅子による移送 (演習)
第12回	ストレッチャーによる移送 (演習)
第13回	環境を整える技術ーベッドメイキングー

第14回	ベッドの構造や操作方法（演習）
第15回	ベッドメイキング（演習）
第16回	環境を整える技術－シーツ交換－
第17回	シーツ交換（演習）
第18回	環境整備（演習）
第19回	フィジカルアセスメントにおける基本技術－バイタルサイン測定－
第20回	バイタルサイン測定－体温・呼吸・脈拍－（演習）
第21回	バイタルサイン測定－血圧－（演習）
第22回	バイタルサイン測定－血圧・体温・呼吸・脈拍－（演習）
第23回	フィジカルアセスメントにおける基本技術－身体計測－
第24回	身体計測－身長・体重・腹囲・握力－（演習）
第25回	体温管理・保湿の技術
第26回	温罨法・冷罨法（演習）
第27回	技術チェック－体温・呼吸－
第28回	技術チェック－脈拍・血圧－
第29回	技術再チェック
第30回	看護の共通基本技術や日常生活援助技術のまとめ
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された事前学習を行った上で、講義・演習に臨む。 ・学習課題や課題レポートの提出については別途指示するが、講義・演習時毎回持参する。 ・演習の都合上、項目を入れ替えて行うことがある。 ・学習効果を上げるために、2～3コマ続きで行うことがあるので、日程に注意する。 ・身だしなみを整えて演習に臨む。 ・実習室使用上の注意事項を厳守する。 ・演習後の片づけの当番を決めているため、責任を持って行う。
準備学習（予習・復習等）	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習は、提示された学習課題を行う。また、各単元に関する解剖・生理については講義の前に学習しておく。 ・事後学習は、提示された学習課題を行う。また、各単元の看護技術は、空き時間に何回も練習をして習得しておく。 ・1回の授業に対し1時間（週当たり2時間）程度の時間外学習を行う。
評価方法	筆記試験70%、課題レポート10%、技術試験10%、学習態度10%により総合的に評価する。
テキスト	深井喜代子編集（2021）『新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』メヂカルフレンド社（全員購入） 深井喜代子編集（2021）『新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』メヂカルフレンド社（全員購入） 竹尾恵子監修（2021）『看護技術プラクティス 第4版』Gakken（全員購入）
参考文献	必要に応じて、参考書の紹介や資料配布を行う。
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブ・ラーニングの教授法 演習、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、ロールプレイング

ページの先頭へ

閉じる

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	看護診断学概説
代表ナンバリングコード	21249SB19
講義開講時期	前期

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部看護学科	21249SB19

担当教員
氏名
◎ 小楠 範子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎汎用的技能 ○知識・理解 ○態度・志向性
到達目標	<p>本科目は「科学的根拠に基づいた看護の実践力」「看護実践に欠かせない判断力や問題解決力」を身につけるための基盤となる科目である。</p> <p>対象の健康問題を看護の立場から判別し、それを解決するための計画の立案、計画に沿った看護の実施、結果の評価という一連の思考プロセスを学ぶ。さらに、事例を通して一連のプロセスを辿り、基本的な展開方法を修得することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の意義と構成要素、プロセスを述べるができる。 2. ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の要素を説明することができる。 3. 紙上事例を用いて看護過程を展開することができる。
授業の展開計画	<p>本科目は看護を実践するために必要な基本的な思考力を身につけることをめざし、病院における看護師としての実務経験を活かした授業内容になる。特に、ヘンダーソンの看護理論を基盤に、事例を用いて具体的な現象から看護過程の思考を理解できるように授業展開を行う。</p>

授業計画表	
回	内容
第1回	授業ガイダンス 看護過程の意義と構成要素
第2回	看護過程の展開① 情報収集・分類・整理（講義）
第3回	看護過程の展開② 情報収集・分類・整理（ワーク）
第4回	看護過程の展開③ 解釈・分析（講義）
第5回	看護過程の展開④ 解釈・分析（ワーク）
第6回	看護過程の展開⑤ 情報の統合と全体像（講義）
第7回	看護過程の展開⑥ 情報の統合と全体像（ワーク）
第8回	看護過程の展開⑦ 看護問題の明確化と優先順位（講義）
第9回	看護過程の展開⑧ 看護問題の明確化と優先順位（ワーク）
第10回	看護過程の展開⑨ 目標の設定と計画の立案（講義）
第11回	看護過程の展開⑩ 目標の設定と計画の立案（ワーク）
第12回	看護過程の展開⑪ 実施と評価（講義）
第13回	看護過程の展開⑫ 実施と評価（ワーク）
第14回	NANDA-I看護診断の構造
第15回	看護過程のまとめ

履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各個人の自己学習が基本となり、自己学習の結果を用いてグループ学習を行うため、原則として全時間出席を求める。 ・提示された事前・事後の課題は必ず行ってから授業に臨む。 ・課題やレポートは提出期限を守る。（提出の遅れは減点の対象となる） ・グループ学習では積極的に参加し、疑問などは時間内に解決するよう努める。
準備学習（予習・復習等）	<ul style="list-style-type: none"> ・「看護原論」「看護の思想」「健康論」「発達援助論」「基礎看護技術Ⅰ（基本技術）」「基礎看護技術Ⅱ（生活援助）」での学習内容を復習しておく。 ・事例を理解するために必要な人体の構造や機能、疾患や治療、検査データなどの基礎的知識については、1年次に学習した内容の復習に加え自己学習をして授業に臨む。 ・事前・事後の課題はその都度提示する。 ・1回の授業に対し1時間程度の時間外学習を行う。
評価方法	小テスト10%、課題レポート30%、最終レポート50%、授業態度10% 上記の項目を総合的に判断して評価する。
テキスト	秋葉公子他著（2013）『ヘンダーソン看護論の実践 第4版』ヌーヴェルヒロカワ（全員購入） 深井喜代子他著（2021）『新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ（第6版）』メヂカルフレンド社（1年次前期全員購入済み）
参考文献	竹尾恵子監（2007）『新訂版 超入門事例でまなぶ看護理論』Gakken（講義時配布） 高木永子監（2018）『看護過程に沿った対症看護 第5版』Gakken（講義時配布） 阿部俊子監（2014）『エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図（改訂版）』中央法規 T.ヘザー・ハードマン他編（2021）『NANDA-I看護診断 定義と分類2021-2023 原書第12版』医学書院 任和子編著（2022）『実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド 第2版』照林社 その他は、講義の中で随時紹介する
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授方法：グループワーク、グループディスカッション等

[ページの先頭へ](#)

[閉じる](#)

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	生体防御・感染看護論
代表ナンバリングコード	21149SC08
講義開講時期	後期

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部看護学科	21149SC08

担当教員
氏名
◎ 中野 智子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎汎用的技能 ○知識・理解 ○態度・志向性
到達目標	<p>感染症の原因となる微生物（細菌、真菌、リケッチア、クラミジア、ウイルスなど）の性状、感染様式、発病機構、感染病態などを理解し、その感染症の予防・治療法・看護について学ぶ。</p> <p>①微生物の基本知識を学び、病原微生物が宿主・環境とどのように関わりあいながら、人に感染症を引き起こすかを理解できる。</p> <p>②感染症の感染様式を理解し、医療従事者として周囲への感染拡大防止、自らの感染症に罹患することを防止することの重要性を理解し実践できる。</p> <p>③感染に対する人の免疫応答について理解できる。</p> <p>④感染症診断における原則と基本的な流れについて理解できる。</p> <p>⑤各種感染症の代表的な原因微生物の臨床像や感染治療薬について理解できる</p> <p>⑥感染症患者の症状、看護について理解できる</p>
授業の展開計画	<p>講義は総論と各論に分けて行う。総論では、微生物・免疫学の発展の歴史、微生物学の基礎、微生物と感染症、免疫と生体防御機構、感染症の制御、化学療法と耐性菌について学習する。各論では微生物各論と感染症の臨床編、検査と診断、看護について学習する。なお、本科目は病院における感染管理認定看護師の実務経験からの業務の実際を考慮した内容も含む。</p>

授業計画表

回	内容
第1回	微生物学・免疫学発展の歴史、微生物学の基礎、微生物と感染症
第2回	免疫と生体防御機構
第3回	感染症の制御
第4回	感染症の制御
第5回	化学療法と耐性菌
第6回	化学療法と耐性菌
第7回	細菌学各論
第8回	細菌学各論
第9回	ウイルス各論
第10回	真菌学各論、原虫学各論
第11回	感染症の臨床編
第12回	感染症の臨床編
第13回	感染症でみられる症状、感染症の検査と診断
第14回	感染症患者の看護（感染性腸炎、インフルエンザ、薬剤耐性菌など）

第15回	感染症患者の看護（HIV・AIDS、COVID-19）
履修上の注意事項	授業展開計画に該当するテキストの範囲を事前に読んでおくこと。
準備学習（予習・復習等）	1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	定期試験100%
テキスト	増澤俊幸（2020）『感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学』羊土社（全員購入） 岩田健太郎（2020）『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(11) アレルギー、膠原病、感染症』医学書院（全員購入）
参考文献	各講義で提示
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。

[ページの先頭へ](#)

[閉じる](#)